

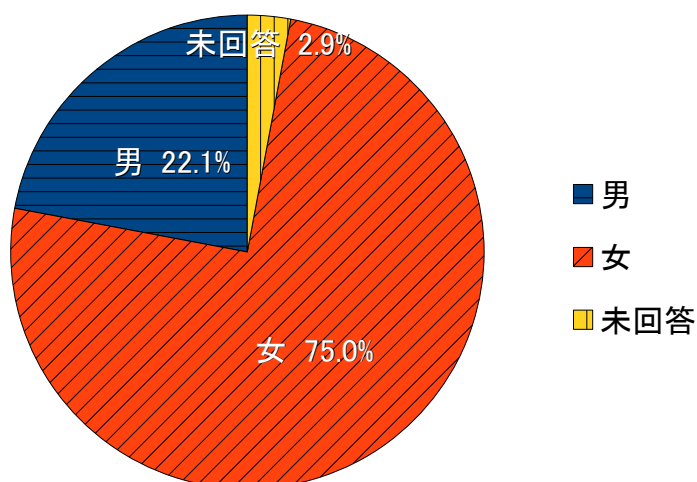
## ごみの排出状況に関するアンケート調査集計

設問1 あなたについて教えてください。(該当する選択肢に○をつけてください)

性別	1 男性 ・ 2 女性
年齢	1 ~30代 2 40代 3 50代 4 60代~
お住まいの地区	1 北会津町・真宮新町の地区 2 河東町の地区 3 その他の地区 ※「 <u>ごみ・資源物排出カレンダー</u> 」の地区に○をつけてください。
同居世代	1 1世代 2 2世代 3 3世代 ※自分を中心に、親・子等他の世代と同居を共にしているか

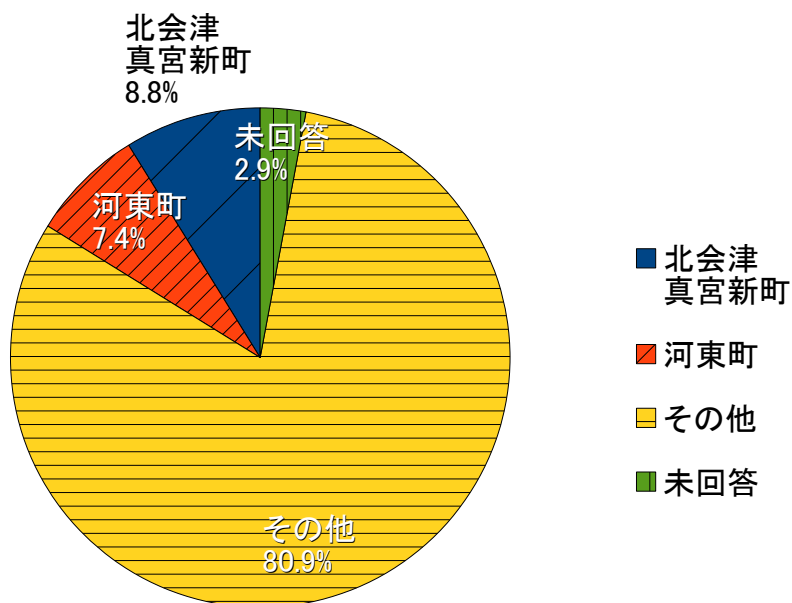
### 【 回答者の属性 】

#### ● 年代と性別



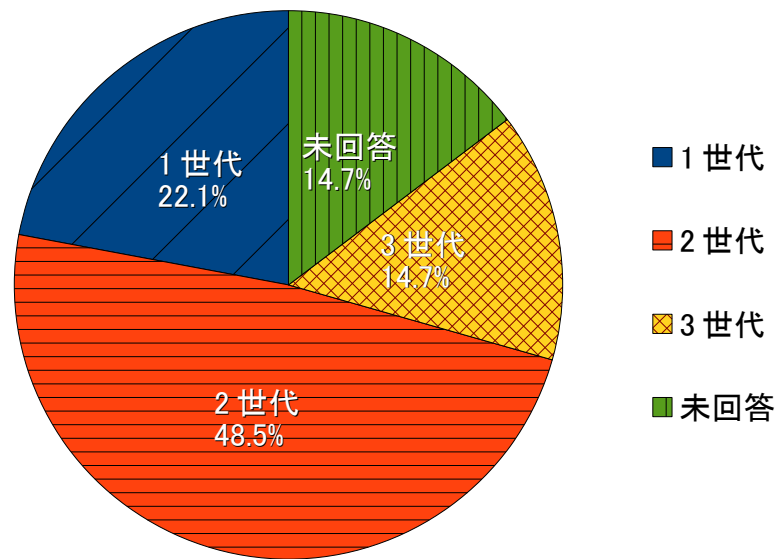
年代	性別			合計
	男	女	未回答	
~30	1	10	0	11
40	2	20	1	23
50	2	6	0	8
60~	8	15	1	24
合計	13	51	2	66
年代未回答	2	0	0	2
回答総数	15	51	2	68
率	22.06%	75.00%	2.94%	100.00%

● 年代と居住地区



年代	居住地区				合計
	北会津真宮新町	河東町	その他	未回答	
～30	1	0	10	0	11
40	3	1	19	0	23
50	0	2	6	0	8
60～	2	2	20	0	24
合計	6	5	55	0	66
地区未回答	0	0	0	0	0
年代未回答	0	0	0	2	2
回答総数	6	5	55	2	68
率	8.82%	7.35%	80.88%	2.94%	100.00%

● 年代と世帯構成



年代	世代				合計
	1世代	2世代	3世代	未回答	
～30	0	10	1	0	11
40	2	12	5	4	23
50	2	4	2	0	8
60～	11	7	2	4	24
年代不明	0	0	0	2	2
合計	15	33	10	10	68
率	22.06%	48.53%	14.71%	14.71%	100.00%

● 年代

30代から60代以上まで、幅広い年齢層の方に回答いただいた。

● 性別

男性22%、女性75%と女性の回答率が多いが、①家庭でのごみの分別には主に女性に関わることが多いこと、②ごみの分別やごみ問題への政策について性差がもたらす影響はあまり大きくないこと、から実態と乖離した状況ではないと判断できる。

● 居住地区

本市の人口比と比較すると、北会津地区、河東地区、その他の地区(旧若松市)、の割合はほぼ市の全体像を反映している。

※本市の人口比(H26.10現在現住人口から算出)北会津地区: 5.61%、河東地区: 6.88%、その他の地区: 87.51%

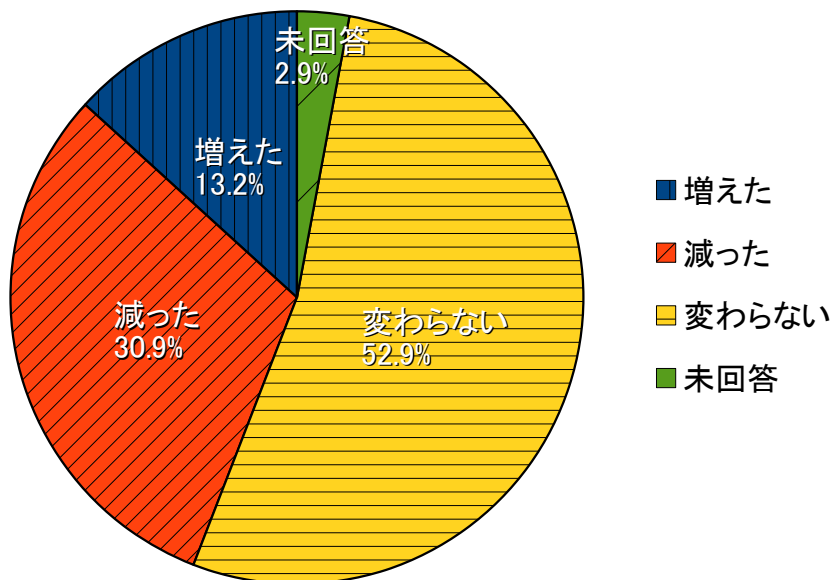
● 世帯構成

30・40代では2世代(両親と子)、60代以上では1世代(配偶者または単身)が多い結果となった。これは、近年の核家族化や世帯分離の状況等を反映しているものと思われる。

⇒ 回答者の属性から、このアンケートは概ね本市の年代、世帯、家事分担の状況等、市民の生活様式や実態を一定程度反映している(意見が偏っていない)と推定できる。

設問2 会津若松市では、平成22年度まで、ごみの量が減少していました。しかし平成23年度以降(東日本大震災以降)は増加に転じています。平成23年度以降とそれ以前とを比較して、ご家庭のごみの排出状況について教えてください

- (1) あなたのご家庭から出るごみの量は変化しましたか  
1 増えた((2)へ) 2 減った((3)へ) 3 変わらない



	人数	割合
増えた	9	13.2%
減った	21	30.9%
変わらない	36	52.9%
未回答	2	2.9%
合計	68	100.0%

(2) 【選択回答】(1)で1に○を付けた方のみ回答してください。

ごみが増えた理由は何ですか？該当する選択肢すべてに○をつけてください

- 1 世帯人数が増えた(出産、子どもの帰郷、両親との同居開始など)
- 2 東日本大震災の影響(破損した家具や食器などの片付け、余震への不安から倉庫を片付けた、など)
- 3 家の片付け・整理(押入れや倉庫などに眠っている品物を処分している、大掃除をしているなど)

※地震の影響によるものをのぞく

- 4 子育てや介護によってオムツ等のごみが出るようになった
- 5 買い物をする頻度・一度に買う量が増えた(日常的に)
- 6 消費増税の際に、家具や日用品などを買い換えたため、ごみが増えた
- 7 その他(具体的に記載ください)

年代	設問							未回答	合計
	1	2	3	4	5	6	7		
～30	4	0	0	2	1	0	0	0	7
40	2	0	2	3	0	1	0	0	8
50	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～	0	1	0	0	0	0	0	4	5
合計	6	1	2	5	1	1	0	4	20
年代未回答	0	0	0	0	0	0	0	1	1
回答総数	6	1	2	5	1	1	0	5	21
率	28.6%	4.8%	9.5%	23.8%	4.8%	4.8%	0.0%	23.8%	100.0%

(3) 【選択回答】(1)で2に○を付けた方のみ回答してください。

ごみが減った理由は何ですか？該当する選択肢すべてに○をつけてください

- 1 世帯人数が減った(世帯分離、子どもの大学入学等)
- 2 子育てや介護によって出ていたオムツ等のごみが減った
- 3 買い物をする頻度・一度に買う量が減った
- 4 物を大切に使うようになった
- 5 その他

年代	設問					未回答	合計
	1	2	3	4	5		
～30	0	0	0	0	0	0	0
40	1	2	3	6	0	0	12
50	1	0	1	2	0	0	4
60～	4	0	7	5	4	3	23
合計	6	2	11	13	4	3	39
年代未回答	0	0	0	0	0	0	0
回答総数	6	2	11	13	4	3	39
率	28.6%	9.5%	52.4%	33.3%	19.0%	14.3%	100.0%

●その他の意見

- ・昨年、夫の退職に伴いいわきから会津若松市に移転し、野菜は自給自足になったので、あまり購入することがなくなった(60代女性)
- ・生ごみの堆肥化(60代・男性)
- ・コンポストの利用(60代・男性)
- ・家庭菜園を始めたので、生ごみは自分で処理をするようになつたので。(60代・女性)

●ごみの量に対する認識

約半数の方がごみの量は「変わらない」と認識している。

●ごみが増えた要因

ごみの量が増えた、と回答した約1割の方は、30代、40代の方で、「世帯員数の増加」を主な増加要因としてあげている。

これは、出産や親との同居等、ライフステージの変化によって生じる当然の結果である。

近年の少子高齢化の状況下ではこうした変化が全市のごみ排出量を押し上げる要因とは考えにくい。

●ごみが減った要因

ごみの量が減った、と回答した約1割の方は、60代以上の方で、「購入する量の減少」等を要因としてあげている。また、その他の意見のとおり野菜の栽培や生ごみの堆肥化等による減少を上げる方もいる。

⇒ 少子高齢化の状況を考慮すると、若年世代が出産・育児等によりごみが増えたとしても、高齢世代のごみの減少によりある程度相殺されると思われる。

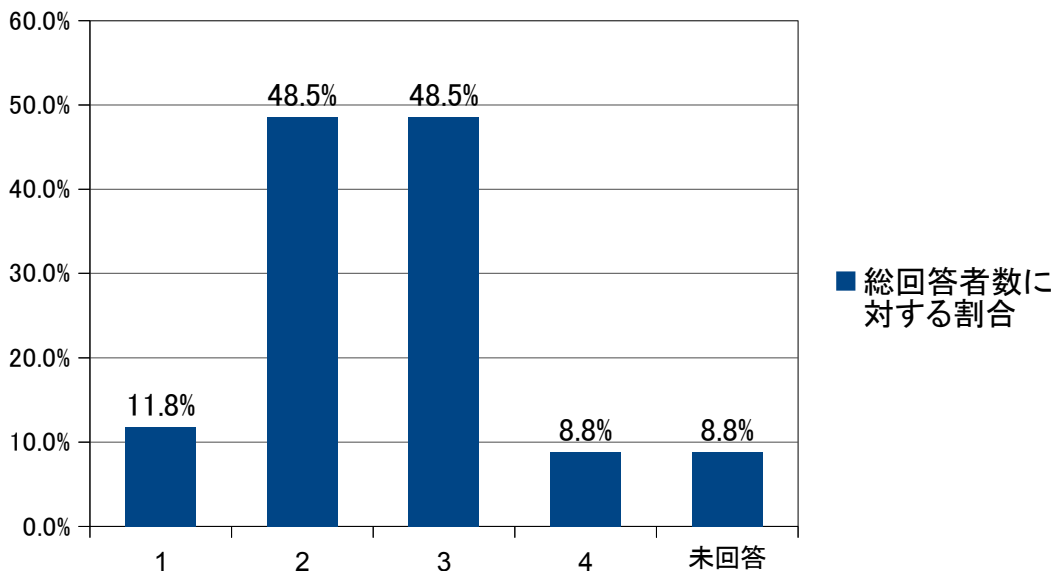
⇒ 本アンケートからは近年のごみの増加の直接的な要因は見出せない。

設問3 あなたが現在行っているごみ減量のための取組みを教えてください

※以下の取組みについて、実践しているものすべてに○をつけてください

(1) 生ごみ減量の取組みについて

- 1 コンポストや電動式生ごみ処理機を利用して堆肥化している
- 2 ごみとして出す際は水が出なくなるまで、“ぎゅっ”としぼって出している(軽くきる程度はのぞく。)
- 3 生ごみが出ないよう、食材を食べ切るようにしている(野菜の皮を調理する、残り物を別な料理にリメイクするなど)
- 4 その他(生ごみ減量のための工夫があればお教えてください)



年代	設問					合計
	1	2	3	4	未回答	
～30	0	2	6	0	2	10
40	1	14	15	2	0	32
50	1	4	6	0	1	12
60～	6	12	6	4	2	30
年代未回答	0	1	0	0	1	2
合計	8	33	33	6	6	68
率	11.8%	48.5%	48.5%	8.8%	8.8%	100.0%



●その他の意見

- ・麦茶のティーパックは日の当たる所で乾燥させてから捨てている(40代・女性)
- ・スーパーで野菜の安売りや特売をしても大量に買わない。  
その都度、食べきれぬ量の野菜を買う。(40代・女性)
- ・畑の土づくりのため堆肥をつくるので、野菜くずや除草した草などは、堆肥に入れるようにしている(60代・女性)
- ・食材を余るほど作らないようにする。毎食食べきれぬように(70代・男性)
- ・分別を積極的にやっている。(60代・男性)
- ・隅々まで食べる。畑に捨てる。(40代女性)
- ・野菜の皮、切りカスなどは畑の土の中に入れます。(60代・女性)

●ごみ減量化の取り組みについて

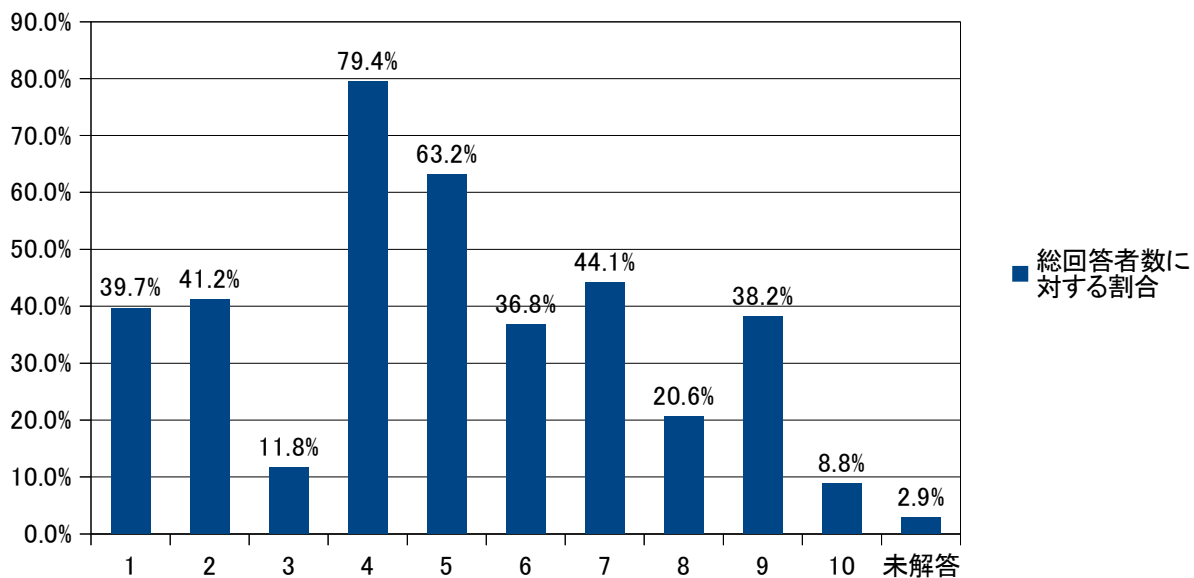
堆肥化よりも生ごみの水切りや食材の使いきり、食べ切りによって生ごみ減量化に取り組んでいる方が多い。実践している割合は共に半数程度。

⇒ 生ごみの水切りと食材の使いきりは両方実施することでより高い減量効果があると考えられるが、各世代とも、両方の取組みを同程度実施している方は少ない。

⇒ 生ごみの減量化はまだまだ実施可能と思われる。

(2) 其他のごみ減量の取組み

- 1 物が壊れた場合は買い換えるのではなく修理して使っている
- 2 物を買う際は、少し高くても、丈夫で長持ちする物を買っている
- 3 物を買う際は、価格以上に、省資源化(製品の軽量化、箱や袋など容器包装の軽量化など)が進んでいる物やリサイクル原料を使用しているものを優先して購入している
- 4 レジ袋が有料か無料かに関わらず、買い物をする際には、マイバッグやマイバスケット等を持参してレジ袋を断っている
- 5 買い物の際には不要な包装紙などは断っている(簡易包装)
- 6 不要になった衣類等がまだ着られる場合、友人や親戚とゆずりあっている
- 7 不要になった衣類等がまだ着られる場合、リサイクルショップやフリーマーケットに出している
- 8 衣類や家具等を買う際はリサイクルショップやフリーマーケットを利用している
- 9 マイボトルやマイはし等を利用して使い捨ての食器は使用しないようにしている
- 10 その他(ごみ減量のための工夫があれば教えてください)



年代	設問											合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	未回答	
~30	5	2	0	9	8	3	2	1	5	0	0	35
40	10	14	2	17	15	12	14	6	7	2	0	99
50	3	2	2	7	6	2	4	2	2	1	0	31
60~	8	10	4	20	13	8	10	4	12	3	1	93
年代未回答	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	5
合計	27	28	8	54	43	25	30	14	26	6	2	68
率	39.7%	41.2%	11.8%	79.4%	63.2%	36.8%	44.1%	20.6%	38.2%	8.8%	2.9%	100.0%

●その他の意見

- ・お菓子の紙箱は古紙として出している(40代女性)
- ・必要でないものは、買わない、もらわない、溜め込まない(60代・女性)
- ・ペットボトルの飲料水などをあまり買わないのでできる限り自宅で麦茶などを作って飲んでいきます(70代・男性)
- ・すべて残さず食べる。(40代女性)
- ・プラスチックは洗って資源に回す。小さな紙も資源に出す。(50代・女性)
- ・着物をあいのさとにあげた。(60代・女性)

●その他の取り組みについて

簡易包装やレジ袋の辞退が最も多く、次いでリユース(友人との譲り合い・リサイクルショップの利用等)、品物の修理、使い捨て食器の削減と続いている。

また、丈夫な物を購入するよう意識している方に比べ、省資源化製品を意識的に購入している方は少ない結果となっている。

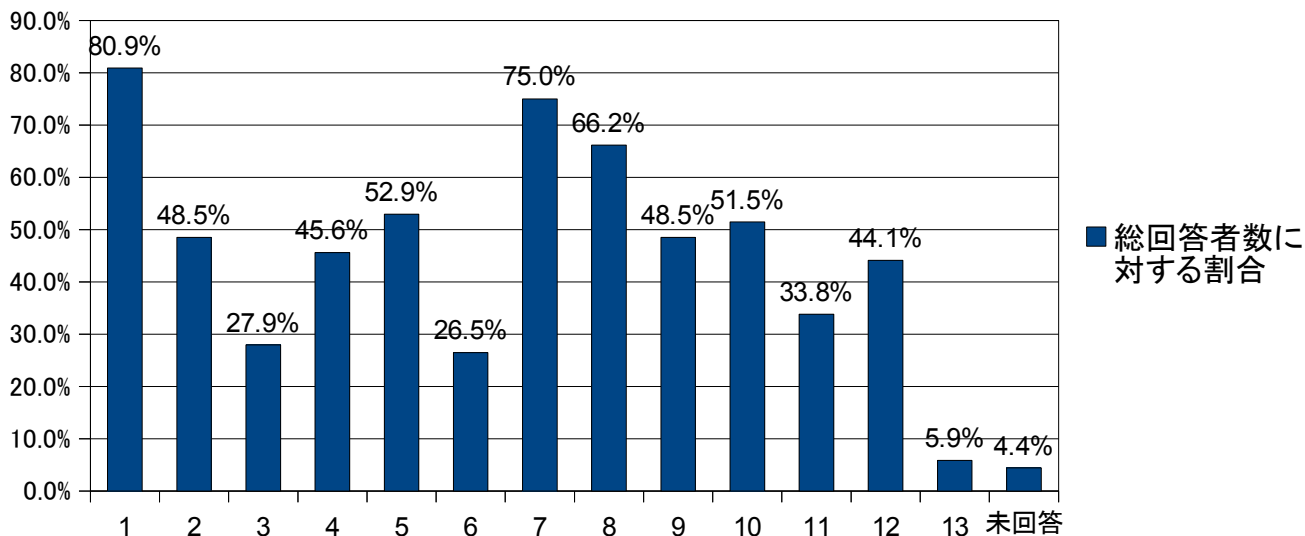
⇒この問いでは、物の買い方や扱い方に関する意識を調査している。

買い物の際は簡易包装やレジ袋の辞退といった行動は当たり前の行動となりつつあるが商品の環境性能(丈夫さ、使用されている資源量、ごみとなった際の影響等)を意識している方は少ない。

設問4 あなたが今後実践できると感じるごみ減量・リサイクル推進のための取組みを教えてください

**※実践できると感じる取組みすべてに○をつけてください。**

- 1 生ごみを出す際には、水をしっかり切って出す
- 2 生ごみが出ないよう、食材を食べ切る(野菜の皮を調理する、残り物を別な料理にリメイクするなど)
- 3 生ごみをコンポストなどで堆肥化する
- 4 物が壊れた場合は買い換えるのではなく修理して使う
- 5 物を買う際は、少し高くても、丈夫で長持ちする物を買う
- 6 物を買う際は、価格以上に、省資源化(製品の軽量化、箱や袋など容器包装の軽量化など)が進んでいる物やリサイクル原料を使用しているものを優先して購入する
- 7 レジ袋が有料か無料かに関わらず、買い物をする際には、マイバッグやマイバスケット等を持参してレジ袋を断る
- 8 買い物の際には不要な包装紙などは断る(簡易包装)
- 9 不要になった衣類等がまだ着られる場合、友人や親戚とゆずりあう
- 10 不要になった衣類等がまだ着られる場合、リサイクルショップやフリーマーケットに出す
- 11 衣類や家具等を買う際はリサイクルショップやフリーマーケットを利用する
- 12 マイボトルやマイはし等を利用して使い捨ての食器は使用しない
- 13 その他(ごみ減量のための工夫があればお教えてください)



年代	設問														合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	未回答	
～30	9	5	2	4	7	3	8	9	7	5	5	8	0	0	72
40	18	15	4	12	16	6	18	16	15	16	9	12	0	0	157
50	7	6	3	4	3	2	6	6	3	5	1	2	3	1	52
60～	20	7	10	10	10	7	18	13	8	9	7	8	1	1	129
年代未回答	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	6
合計	55	33	19	31	36	18	51	45	33	35	23	30	4	3	68
率	80.9%	48.5%	27.9%	45.6%	52.9%	26.5%	75.0%	66.2%	48.5%	51.5%	33.8%	44.1%	5.9%	4.4%	100.0%

●その他の意見

- ・家庭ゴミで炭酸でないビニール袋がたまっていくが、最終的にはごみで出される運命なので、家庭ではどんな袋でごみ出ししても良いのではないかと思う。二重になってどうせ捨てるだけの袋であるので。それよりも、企業・店で炭酸カルシウム入りの袋以外は使用させないことにしたら良いのではないか。(50代・女性)
- ・本当に必要なものしか買わない。(50代・女性)
- ・不用なものを家に持ち込まないようにする。(50代・女性)
- ・着物などは自分でリメイクして再利用している。(60代・女性)

● 今後実践できると感じる取り組みについて

生ごみの水切り、食材の食べ切り、包装紙やレジ袋の辞退など、身近で気軽な取り組みに「実践できる」という印象を持った方が多いようだ。

また、「生ごみの堆肥化」を選択する方はあまり多くなく、住宅の事情や堆肥の利用先等を考えると躊躇する方が多いように見受けられる。

⇒ 特徴的な結果として、

- ① リサイクルショップやフリーマーケットの利用について、「出す」行動(51.5%)と比較して「買う」行動(33.8%)を実践できると感じる方の割合が低くなっている。
- ② 購入方法について、「丈夫な物を買う」行動(52.9%)と比較して、「環境負荷の低い商品を買う」行動(26.5%)を実践できると感じる方の割合が低くなっている。

①については、現在の市民(日本)全体の消費文化として、ヴィンテージなどの付加価値のある物を除いて、リユース品を積極的に使いたいという意識が低い傾向にあることを示していると考えられる。

(※事実、日本の古物市場は国内よりも国外向けの方が規模が大きくなってきている。)

一方で、友人等顔の見える(ある程度閉じた)関係内でのリユースは実践できると感じる方は比較的多い(48.5%)。これは「ある程度閉じた関係性内」であればリユースが一定程度推進されることを裏付けており、近年のフリーマーケットアプリの盛り上がりからもその傾向が伺える。

②については、「丈夫な商品を買う」と「環境負荷の少ない商品を買う」ことは実は同様の行動であるにも関わらず結果に差が生じている点が特徴的である(論理的に考えれば5を選択した方は6も選択する可能性が大きいはずである。)

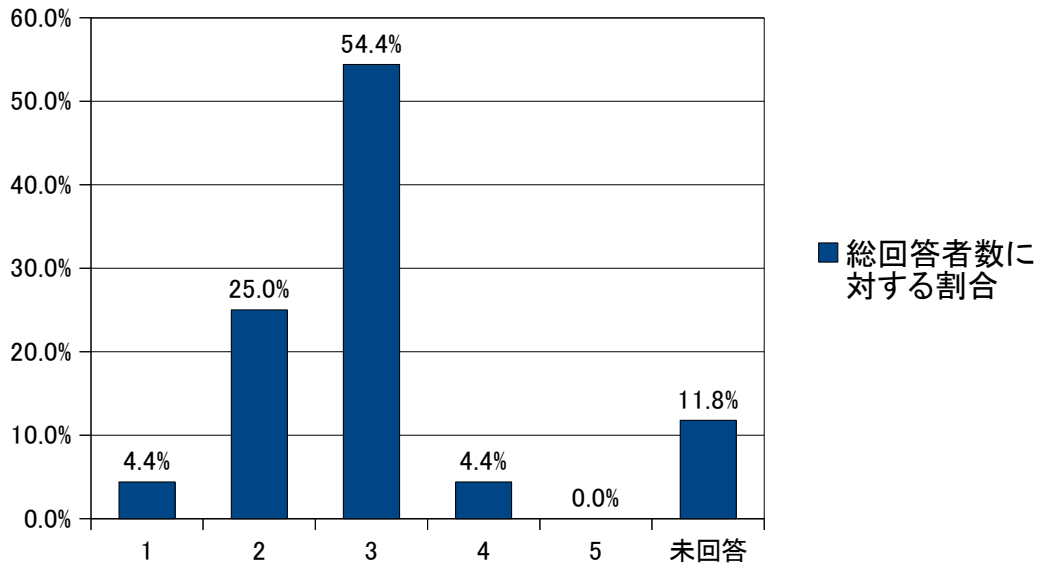
これは、設問の『省資源化(製品の軽量化、箱や袋など容器包装の軽量化など)が進んでいる物やリサイクル原料を使用しているもの』を優先して買うという行動について、具体的な商品や選び方のイメージがわからないために選択できなかったものと思われる。

ごみの排出抑制のためには消費者の商品選択(ごみになりにくい商品を買うこと)も大きな意義を持つ。こうした設問に対して具体的なイメージを持ち、意識的に行動できる市民の方が一人でも多く増えるよう働きかけていくことが今後の取り組みの柱となり得るのではないか。

設問5 あなたが実践しているリサイクルの取り組みについて教えてください

(1) 本市の分別の種類について

1 多すぎる 2 多いが苦ではない 3 適当 4 少ない 5 少なすぎる(もっと増やすべき)



年代	設問						合計
	1	2	3	4	5	未回答	
～30	0	3	8	0	0		11
40	1	7	12	1	0	2	23
50	0	3	3	1	0	1	8
60～	2	3	14	1	0	4	24
年代未回答	0	1	0	0	0	1	2
合計	3	17	37	3	0	8	68
率	4.4%	25.0%	54.4%	4.4%	0.0%	11.8%	100.0%

● 分別の種類について

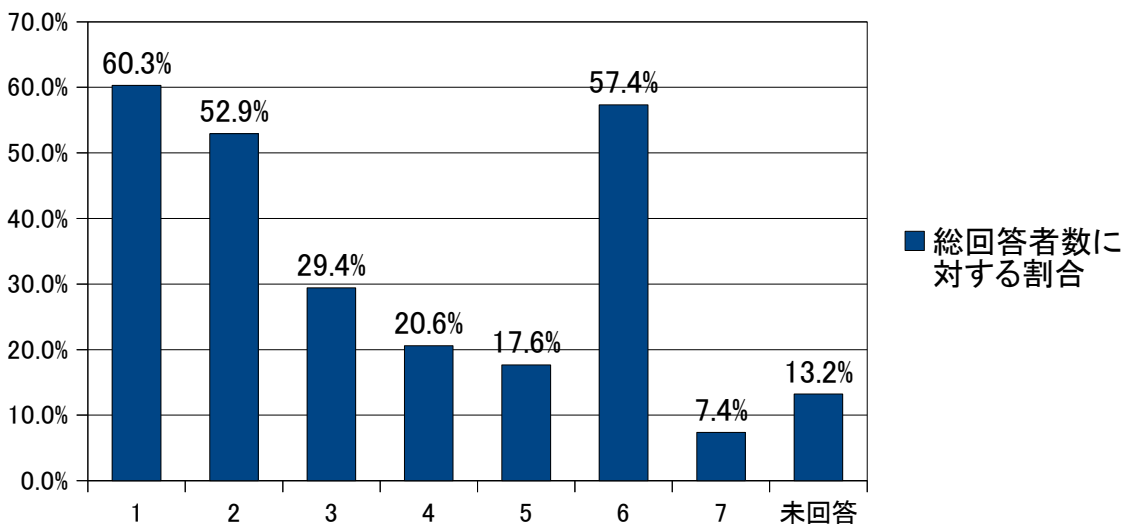
「多いが苦ではない」、「適当」と感じている方が大半である。

(2) 「雑がみ」の出し方について

以下の物のうち、古紙として分別して出している物すべてに○をつけてください。

- 1 ティッシュの箱 2 お菓子やレトルト食品などの紙箱 3 封筒 4 メモ用紙  
5 はがき(圧着式でないもの) 6 チラシ 7 領収書(感熱紙(レシート)を除く)

※封筒やはがきは、個人情報の流出が心配されない物の場合



年代	設問								合計
	1	2	3	4	5	6	7	未回答	
～30	3	3	3	1	3	5	0	2	20
40	16	12	6	4	4	11	2	1	56
50	5	5	3	2	2	6	1	1	25
60～	16	15	7	7	3	16	2	4	70
年代不明	1	1	1	0	0	1	0	1	5
合計	41	36	20	14	12	39	5	9	68
率	60.3%	52.9%	29.4%	20.6%	17.6%	57.4%	7.4%	13.2%	100.0%

● 「雑がみ」の分別について

「雑がみ」の分別については、ティッシュの箱とチラシが最も多く50%以上の方が分別しており、次いで紙箱、その他は10～30%程度と全体的に分別している割合が低いことから、いまだ大半が「燃やせるごみ」に出されていることがうかがえる。

⇒引き続き「雑がみ」、特に、封筒やメモ用紙など小さい物の分別を周知していく必要がある。

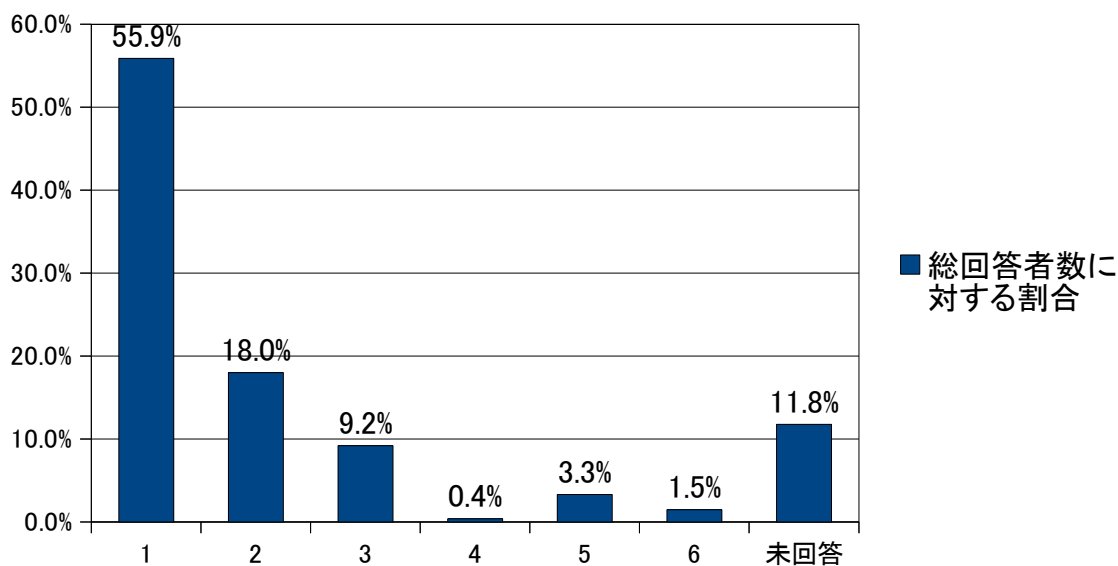


(3) 市の分別方法のお知らせ方法について

市では、毎年『ごみ・資源物排出カレンダー』を通じて皆様に分別方法をお知らせしています。

市の分別方法のお知らせ方法について、より効果的であると感じる方策1つに○をつけてください。

- 1 今のままで十分
- 2 50音別の分別リストなど、もっと詳しい分別の手引きを全戸配布する
- 3 家庭にではなく、ごみステーションに掲示できるポスターを配布する
- 4 紙媒体ではなく、ホームページを充実させる
- 5 紙媒体ではなく、スマートフォンやタブレットを使って見られるアプリを配信する
- 6 その他



年代	設問							合計
	1	2	3	4	5	6	未解答	
～30	6	4	1	0	0	0	0	11
40	13	4.25	2.25	0.25	1.25	0	2	23
50	5	1	1	0	0	0	1	8
60～	14	2	2	0	1	1	4	24
年代不明	0	1	0	0	0	0	1	2
合計	38	12.25	6.25	0.25	2.25	1	8	68
率	55.9%	18.0%	9.2%	0.4%	3.3%	1.5%	11.8%	100.0%

●その他の意見

- ・各家庭に配布されるカレンダーは配布された1月を見るが、2月からは本箱に片付けてしまい出して見たりしない。各ごみステーションに掲示してある方が合理的だと思う(40代・女性)
- ・カレンダーだけでなく、一目でみられる分別方法を載せたイラスト入りで分かりやすいポスターを各家庭に配布する(60代・女性)
- ・カレンダーの最初のページに「正しい分け方・出し方」を入れたらどうか、第1週水曜日と第1水曜日を間違えて出す人が多い(60代・女性)
- ・5番は反対です。操作ができない人もいます(70代・男性)
- ・他地域に住んでいた時、分別リストが細かく悩まずに捨てられたから、あったほうが便利。(40代・女性)

●周知方法について

大半の方が「今のままで十分」と感じている。

また、HPやアプリ等、電子媒体については各年代とも関心は高くない。

⇒行政情報をHPやアプリ等で入手したいと感じる方は少なく、大半の方が紙媒体での発信で十分と感じている。行政情報を自発的に取得する需要・習慣がないことから、市側からの丁寧な、かつ付加価値の高い情報を発信していくことが必要。

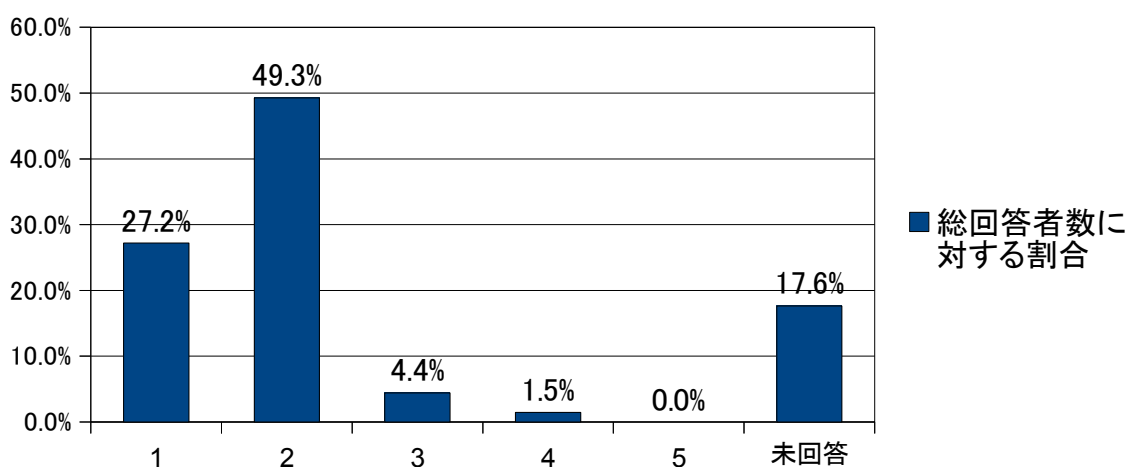
⇒本アンケートでは50音分別リストやポスターなど、カレンダー以外の媒体への需要は低いですが、市への問い合わせの中にはその他の意見にあるように壁やごみステーションに掲示できる「出し方・分け方」のポスターも要望も根強い。

よって、毎年ではないにせよ分別啓発用ポスターの作成は検討の余地があるものと考えらる。

#### (4) リサイクルに関する意識

リサイクルには資源の節約・有効利用というメリットがある一方、コスト(お金や人手、エネルギー)がかかります。その点をふまえてあなたの考えに最も近い選択肢1つに○をつけてください。

- 1 リサイクルのメリットを最優先し、多少コストがかかってもリサイクルをすすめるべき
- 2 リサイクルのメリットとコストの両方を考慮し、できるだけコストをかけない方法で行うべき
- 3 コストがかかるのなら、リサイクルは縮小すべき
- 4 コストに関わりなく、リサイクルは縮小すべき
- 5 その他



年代	設問					未回答	合計
	1	2	3	4	5		
～30	1	9	1	0	0	0	11
40	6.5	12.5	1	0	0	3	23
50	1	5	0	1	0	1	8
60～	9	7	1	0	0	7	24
年代未回答	1	0	0	0	0	1	2
合計	18.5	33.5	3	1	0	12	68
率	27.2%	49.3%	4.4%	1.5%	0.0%	17.6%	100.0%

● リサイクル事業に対するコスト意識について

「できるだけコストをかけない方法で行うべき」が多い。

⇒ 再資源化に力を入れるよりも、減量化に力を要れ、リサイクルも含めた全体のごみ処理量を削減していくという方針には多くの方が理解を示すものと思われる。

## 設問6 ごみ収集の体制について

### (1) ごみ収集の頻度について

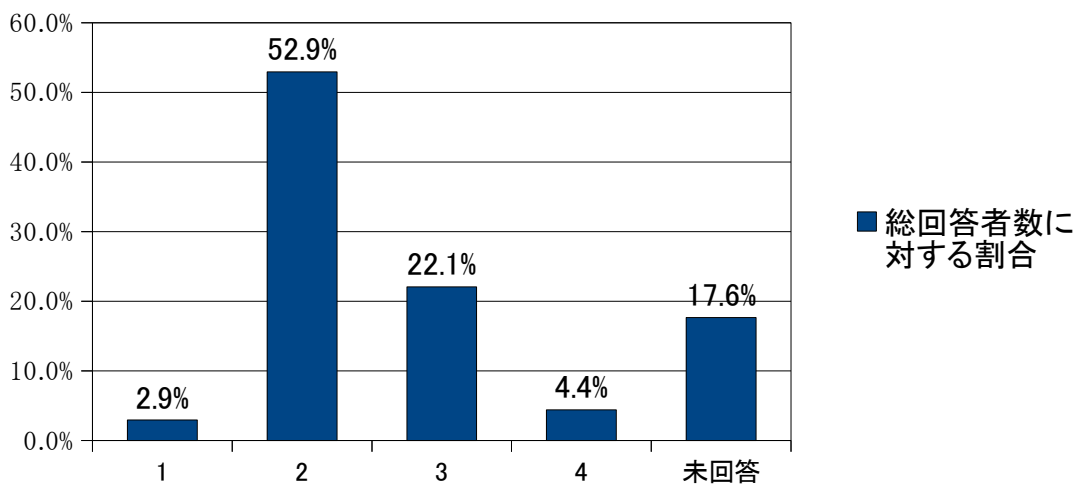
ひと月あたりのごみの収集回数について、種類ごとに、適当だと思う選択肢の欄に○をつけてください。

種類	設問			合計
	多い	適当	少ない	
燃やせるごみ	5	45	7	57
	8.8%	78.9%	12.3%	100.0%
燃やせないごみ	4	39	13	56
	5.9%	57.4%	19.1%	82.4%
古紙類	2	46	8	56
	2.9%	67.6%	11.8%	82.4%
かん類	2	42	12	56
	2.9%	61.8%	17.6%	82.4%
びん類	3	46	7	56
	4.4%	67.6%	10.3%	82.4%
ペットボトル	5	35	17	57
	7.4%	51.5%	25.0%	83.8%
プラスチック製 容器包装	4	41	11	56
	5.9%	60.3%	16.2%	82.4%
粗大ごみ	4	39	11	54
	5.9%	57.4%	16.2%	79.4%

(2) ごみ収集にかかる経費について

ごみの収集には年間約5億円ほどの経費がかかっています。ごみ収集の経費と排出機会、収集頻度などについて、**あなたの考えに最も近い選択肢1つに○をつけてください。**

- 1 ごみ出しの機会が増えるよう、さらに経費をかけて収集頻度を増やすべき
- 2 ごみ出しの機会が減るのは困るので、多少経費がかかっても現在の収集頻度を維持すべき
- 3 多少ごみ出しの機会が減ってもかまわないので、収集頻度を見直して経費削減に取り組むべき
- 4 その他



年代	設問					合計
	1	2	3	4	未回答	
～30	0	10	1	0	0	11
40	1	11	5	1	5	23
50	0	4	1	1	2	8
60～	1	9	8	1	5	24
年代未回答	0	2	0	0	0	2
合計	2	36	15	3	12	68
率	2.9%	52.9%	22.1%	4.4%	17.6%	100.0%

### ●その他の意見

- ・今以上経費はかからないようにするべきだと思う。少子化で税金も取れない現状だから。
- ・ごみ収集の回数が減ると、観光地会津のまちが汚れそうな気がする(40代・女性)
- ・ごみの処分費用に5億円もの経費が掛かること、市民の税金で賄っていることをもっと市民に周知すべき(60代・女性)
- ・収集場所の設置には基準があるのか、新しく住宅地ができた場合、既存の収集場所との関連も考慮すべき(60代・男性)
- ・収集頻度の適正さがよく分からないので、現状で妥当と考えられる回数へと削減できるのなら、是非回数減で実践していただきたいです。(50代・女性)

### ●ごみの収集頻度について

ごみについては、全種類「適当」と感じている方が多い。「少ない」と感じている方のうち、「ペットボトル」が25%と比較的多い。特に夏場は清涼飲料水等の消費量が増え、排出量が多くなることから、隔週の収集では少ないと感じる方が多いのだろう。

※「粗大ごみ」は平成26年度から毎収集している。アンケートのタイミング(H26年8月)上、まだ情報を知らないために「少ない」と回答した方が一定数いる可能性を考慮する必要がある。

### ●ごみ収集にかかる経費について

経費については「多少経費がかかっても現在の収集頻度を維持すべき」との意見が多く、増やすべき、との意見は少数である。

また、(1)収集頻度が多い、と回答している方は5%程だが、「収集頻度が減ってもかまわない」と回答している方は22%と高い。

(1)の収集頻度について「少ない」、または「現状が適当」と感じている方の中にも、収経費削減のためには、収集頻度が減ることも止む無しとの考えをお持ちの方がいるものと思われる。

(3) ごみ処理の有料化について

ごみ減量化や住民のごみの排出量に応じた公平な費用負担、自治体の財政負担の軽減などを目的に、『ごみの有料化』を行っている自治体があります。

このことについて、あなたの考えに最も近い選択肢1つに○をつけてください。

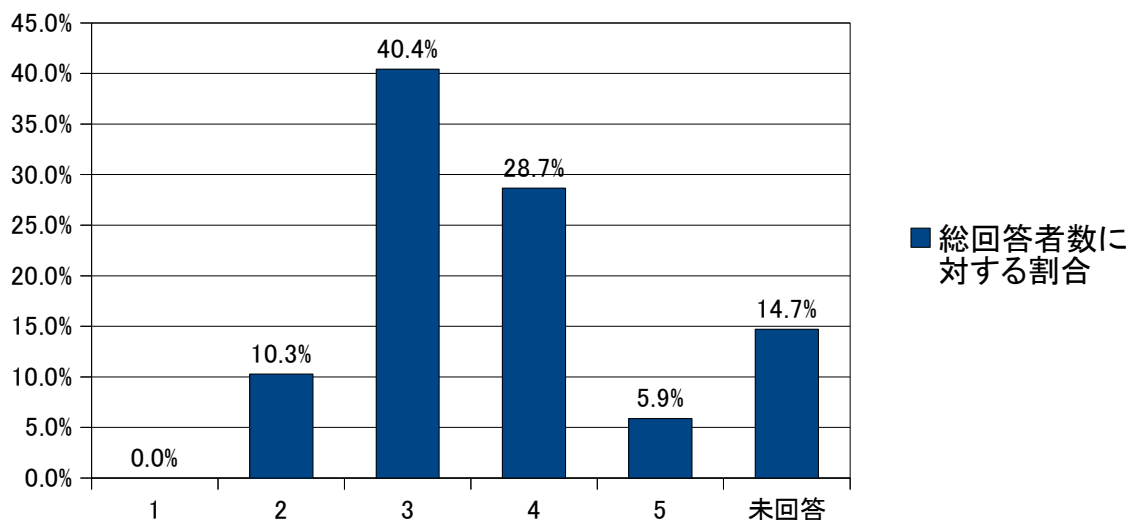
※回答にあたっては、下記【参考】もご参照ください。

- 1 積極的に有料化すべき
- 2 住民の経済的な負担にはなるが、メリットを考えれば、有料化をすることはやむを得ない
- 3 有料化を実施する前に、市民の努力によってごみ減量化を行うべき
- 4 市民に新たな負担を求めることになるため、ごみの有料化はすべきでない
- 5 その他

【参考】ごみの有料化について

◎メリット:①ごみの減量化がすすむ。②住民のごみの排出量に応じた公平な費用負担が実現できる。③市の財政負担軽減につながる、といった見解が示されている。

◎デメリット:①有料化によるごみ減量効果は一時的で、市民が慣れてしまうと有料化前の状態に戻ってしまう。②住民の経済負担増につながる③指定ごみ袋の製造や配布にコストがかかり、かえって財政負担が増す。といった見解が示されている。



年代	設問					未回答	合計
	1	2	3	4	5		
～30	0	1	5	5	0	0	11
40	0	4	5.5	6.5	2	5	23
50	0	0	3	2	1	2	8
60～	0	1	14	5	1	3	24
年代不明	0	1	0	1	0	0	2
合計	0	7	27.5	19.5	4	10	68
率	0.0%	10.3%	40.4%	28.7%	5.9%	14.7%	100.0%

### ●その他の意見

- ・有料化するものと無料回収するごみに分ける。ごみ回収を民営化したら知恵を使って儲かる仕組み作りを考えるとと思う。(40代・女性)
- ・有料化したら逆に不法投棄が増えそう(50代・女性)
- ・有料化反対です。住民の努力と協力が必要だと思います(70代・男性)
- ・ごみ分別を厳しくし、リサイクルできる体制をより進める方法で、結果としてごみ減量化を図るべき。

有料も良い部分ではありますが、低所得者の人々にさらに負担を強いることは避けるべきで、もし有料化やむなしとなった場合には、ギリギリで暮らしている人々へのフォロー対策とあわせて行って下さい。

- ・ごみの有料化はすべきではないというよりしてほしくないと思いますが、各家庭のごみ出しへの意識改革も必要であり、広報や回覧などで続けて周知徹底していくことも大事であると考えています。(40代・女性)
- ・新聞屋さんはチラシを折り込むと収入になり、その額は相当なものになると思う。その分ごみが増えるのだから、年間の標準チラシ量を割り出し、それに応じてお金を取るべきだと思う。(60代・男性)

### ●有料化について

大半の方が「有料化を実施する前に、市民の努力によってごみ減量化を行うべき」「市民に新たな負担を求めることになるため、ごみの有料化はすべきでない」と早急な有料化の導入に懸念を示している。

自由回答として様々な意見が寄せられたことから、本市のごみ問題に関する情報をより丁寧に発信し、市民・事業者の意見を交えて議論を深めることで、ごみ減量化への意識が高まり、様々な取組みが生まれるのではないかと期待が高まる。



設問7 その他ごみ収集に関するご意見・ご要望等がございましたらお教えてください(自由記載)

- 例) ・夜勤があるため、収集日にごみが出せない日があり困っている  
・ごみ出しのマナーが悪い地域に対し、説明会等の対応を行ってほしい など

- ・ごみ回収の時間などもカレンダーに書いてほしい(30代・女性)
- ・古紙収集日に燃やせるごみがダストボックスにあると回収業者が外に出したまま次へ行くので多少気遣いがほしい。もちろんごみを前日にだした人が悪いですが…(40代・女性)
- ・明らかにそこの住人でない人が車でごみを持って来て捨てている。コンビニのゴミ箱感覚で通りすがりにゴミを捨てている人がいる。このことから、全ごみステーションの施設化を進めてほしい。(40代・女性)
- ・私の地域のごみステーションは普段鍵がかかっている訳ではないが、収集日当日にごみを出してマナーが良い地域で気持ちいいです(40代・女性)
- ・他のごみステーション(車で来て)捨てている人がいる。夜捨てる人がいて朝カラスが袋を破いている(網の中に捨てない)(40代・男性)
- ・収集日にはごみステーションからあふれる程のごみが集まるため、ごみステーションを増やして欲しい(特に集合住宅住民の引越しごみが出される時もあり、持ち回りで地区の担当が整理はしているが困ってしまう時が多い。ルールを守って欲しい)(40代・女性)
- ・粗大ゴミを捨てに行ったときの手続きが大変めんどろだった。何回も事務所に寄らせられ計量された。(50代・女性)
- ・ごみの出し方を見ると、分別方法がわからないのか、いい加減なのか、収集時にもっと厳しくチェックし、収集できないものは残しておくべき、大型ごみの有料化は当然と考える(60代・女性)
- ・ごみ収集の方大変ご苦労様です。これからもよろしくお願いします。(70代・男性)
- ・燃やせないごみが月曜日になっている為、月曜日休日が多いので決められた曜日は休日であっても収集してほしい。(年代未回答・男性)
- ・朝仕事に行くのが早いので、ごみを出せる時間をなんとかしてほしい。(30代・女性)
- ・ごみが出ていて汚れているし、カラスや猫が食べている。(30代・女性)
- ・朝早い時間だと一人暮らしの老人など、ヘルパーが対応できないので考慮してほしいと感じるときがあります。(30代・女性)

- ・もう少し分別の詳しくわかる資料が欲しい。  
間違っ出るともう一度家に持ち帰らなければならないので。(40代・女性)
- ・一人ひとりのところがけが大事だと思います。(40代・女性)
- ・幹線道路のごみステーションのトラブルへの対応。(50代・女性)
- ・違った日に出したごみについては手間がかかっても、「持ち帰って下さい」などの張り紙等を地元町内会などと連携して貼付すればマナーが良くなると思う。(60代・男性)